

議事録

会議の名称	令和3年度第1回西東京市総合教育会議
開催日時	令和3年7月27日（火） 午前10時00分から午前11時20分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎4階 第1・2委員会室
出席者	池澤市長、木村教育長、米森教育長職務代理者、後藤教育委員会委員、山田教育委員会委員、服部教育委員会委員、今井教育委員会委員 (事務局) 萱野副市長、保谷企画部長、栗田企画部参与兼企画政策課長、小倉企画政策課企画政策担当主任、利根川企画政策課企画政策担当主任、八矢子ども家庭支援センター長、飯島教育部長、清水教育部特命担当部長、掛谷教育企画課長、工藤教育企画課課長補佐、山縣教育指導課長、荒木統括指導主事、宮崎教育支援課長、和田社会教育課長 (傍聴人) 2人
議題	1 令和3年度の教育に関する重点施策について 2 報告事項等 3 その他
会議資料の名称	資料1 令和3年度の教育に関する重点施策（案）について（企画政策課） 資料2 虐待通報件数について（令和2年度）（子ども家庭支援センター） 資料3 西東京市学生応援特別給付金（企画政策課） 資料4 MUF G パーク（仮称）（企画政策課） 資料5 （仮称）「学校・地域 にしとうきょう応援会議」（企画政策課） 資料6 子ども・地域応援企画（企画政策課） 資料7 （仮称）学校応援団制度について（社会教育課）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○市長： ただいまから、令和3年度第1回西東京市総合教育会議を開会します。 本日の議題は、「令和3年度の教育に関する重点施策について」、「報告事項等」として、各部署からの取組事項の説明、「その他」の3議題です。</p> <p>○市長： 本日の会議は、西東京市総合教育会議会議規則に基づき公開します。傍聴は、西東京市総合教育会議傍聴要領に基づき10席までの傍聴を認めます。会議の議事録は、発言者の発言内容ごとの要点記録とします。御異議ございませんか。</p> <p>（異議なし）</p> <p>○市長： 傍聴の申出があったため、傍聴希望者の入場を許可します。</p>	

○市長：

本日の総合教育会議は、今年度第1回目の会議です。また、私が市長に就任して初めての会議となります。私自身市長就任後の所信表明においても、「子どもにやさしいまちづくり」、そして、「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」を掲げました。

「子どもにやさしいまち」これはすなわち、「すべての人にとってやさしいまち」に繋がっていくと考えています。その中でも特に、学校を核として、子どもたちの成長を行政だけでなく市民の皆様、そして地域の皆様としっかりと見守っていく、そのようなまちづくりを進めていきたいと考えています。

本日は、令和3年度の重点施策についての検討と今年度の取組事項の説明をさせていただきます。有意義な会議となるよう、委員の皆様から意見をいただき、私からも考えを述べさせていただきます。闊達な意見交換を図っていきたく思いますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の会議は、国の緊急事態宣言下での開催となります。会議において、極力、接触を避けるため、職員の出席も最小限としています。できるだけ簡潔な説明に努めてまいりますので、御理解をお願いします。

議題1 令和3年度の教育に関する重点施策について

○市長：

議題1「令和3年度の教育に関する重点施策について」を取り上げます。
企画政策課から今年度の重点施策の（案）について説明をお願いします。

（事務局説明）

<資料1>令和3年度の教育に関する重点施策（案）について（企画政策課）

○市長：

事務局より今年度の重点施策の案が提示されました。事務局の説明にもありましたが、昨年度までの重点施策を見直したものになります。とはいえ、昨年度の重点施策の内容を引き継いでいることは当然であります。今年度は3つの重点施策を掲げていますが、いずれもいじめ・虐待の防止や、学習環境の整備、子どもの居場所の確保といった従来の重点施策を網羅しつつ、そのうえで、地域の輪の中心となる子ども達を、周囲の大人たちがその育ちをいかに支えるかという視点から設定したものです。

率直な御意見をお聞かせください。

○山田教育委員会委員：

今回の重点施策は、「学習環境の整備された学校を核とした地域づくり」ひとつにまとまってしまうという印象を強く感じます。いじめや虐待について、件数としては減っていないことから、施策として重要であることに変わりはありません。「いじめ・虐待の対策」や「切れ目のない支援」、「子どもの居場所の充実」という言葉が抜けてしまうことで、市民や行政の担当者への伝わり方への影響について危惧しています。それらの施策がなおざりにならないよう注意することが必要だと思います。

○米森教育長職務代理者：

抽象的なタイトルになると、サブタイトル等がないと、どこに力を入れているかが見えてこないと思います。いじめや虐待について、このコロナ禍においてどのように対応していくのが一番重要であると考えます。

新たな施策を設定するうえで、これまでの取組を踏まえ、ストーリーを示し、施策を展開する必要がある気がします。中学校の放課後カフェや子ども食堂等、子どもの居場所づくりに関する言葉が抜け落ちると、皆さん気になるため、サブタイトルなりを工夫し示していただきたいと思います。

○後藤教育委員会委員：

子どもにやさしい地域づくりについて、西東京市では様々取り組んでいらっしゃいます。例えば、「子どもの心の声を聞き取り、支えていく地域の人々がともに協力しあうことで地域づくりを進めていく」等のサブタイトルが必要ではないかと思いました。

○服部教育委員会委員：

地域を作っていくのは行政ではなく、地域の方々に、実際に多くの地域の方が活動をされています。そのことがわかるような言葉や、その地域づくりを応援する思いの記載が必要だと考えます。

また、子どもに関心がない方、子どもと接点がない方が置き去りにならないよう、生涯教育の視点からも、そのような方への配慮が必要に感じました。

○今井教育委員会委員：

今年度の取組にも、令和2年度までの取組の内容を踏まえている必要があります。そのうえで、市がどこに力を入れているのかが分かるよう、キーワードで示す必要があると思います。

また、地域での活動が活発になることはよいことですが、多くの方が関わっていくこととなるため、保護者としてはセキュリティ面が心配であり、配慮が必要だと感じました。

○市長：

新しい重点施策について、表現が抽象的で分かりにくいというのが皆様の御意見であると思います。いじめや虐待への対応や、切れ目のない支援はこれまでもこれからも重要なテーマであります。サブタイトルという御提案もありましたので、わかりやすく、何を重点的に取り組むかを明確に示したいと思います。

「時代の変化に対応した学習環境等の整備」については、GIGAスクールも含まれますが、幅広い生涯学習への支援もここに含めていこうと考えています。

また、「学校を核とした地域づくり」については、これまで「子どもの居場所の充実」という視点でありましたが、これに「学校を核とした地域としての支援」という視点が含まれます。いただいた御意見を踏まえ、再度整理を図ります。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

今回の重点施策については、令和2年度を取組内容がなくなってしまうわけではありません。次回以降の会議で、行政として取り組む具体的な内容を御報告させていただきます。その中で、お話のありましたキーワードや狙いを明確に整理しながら進めさせていただきます。

○市長：

様々な御意見をいただきありがとうございました。令和3年度の重点施策（案）については、いただいた御意見を踏まえまして、改めて整理をさせていただきたいと思います。大枠については令和2年度の重点施策を引き継ぎつつ、新しい視点を取り入れることで進めたいと思います。

議題2 報告事項等

○市長：

それでは、議題2「報告事項等」を取り上げます。
各担当課より説明をお願いします。

(事務局説明)

- <資料2>虐待通報件数について(令和2年度)(子ども家庭支援センター)
- <資料3>西東京市学生応援特別給付金(企画政策課)
- <資料4>MUF Gパーク(仮称)(企画政策課)
- <資料5>(仮称)「学校・地域 にしとうきょう応援会議」(企画政策課)
- <資料6>子ども・地域応援企画(企画政策課)
- <資料7>(仮称)学校応援団制度について(社会教育課)
- <口頭説明>夏休み期間中の子どもの居場所確保の取組紹介(企画政策課)

○市長：

事務局より報告がありました。

資料3から7までの取組については、いずれも今年度新たに開始する取組です。資料5の「(仮称)「学校・地域 にしとうきょう応援会議」」は、私が公約として掲げています「元気サミット」の考えを踏まえたものです。本市には、多くの方が地域において子どもたちを支えるため、様々活動を行っていただいています。これらの地域の力にスポットをあて、その取組を広く紹介し、それぞれの地域性が発揮できる機会となればと考えています。これらの取組について御意見はございますか。

○山田教育委員会委員：

虐待問題へ対応する職員について、人的資源は不足していないのでしょうか。

○八矢子ども家庭支援センター長：

現在10人の相談員に加え、コーディネーターを含め12人体制で行っています。市を5ブロックに分け、各ブロック2人で対応しています。相談件数は増えてきていますが、質を下げないように努力をしています。

○山田教育委員会委員：

非常に重要なことなので、人的な配慮等を、市として手当していただきたいと思います。

○米森教育長職務代理者：

「子ども・地域応援企画」について、子ども食堂など、既存の取組は対象となるのでしょうか。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

既存のものでも対象になりますが、他の補助金を活用し行っているものは対象外となります。

○米森教育長職務代理者：

西東京レスキューバード等、市と協働し事業を行っている団体で、他から補助を受けていなければ対象となるのでしょうか。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

避難所の運営に関するものでも、子どもを対象にした事業展開を実施するようなものであれば対象となります。

○市長：

皆様の身近でも、地域において活動していただいている方がいらっしゃれば、委員の皆様からもお声かけをいただきたいと思います。

○後藤教育委員会委員：

「(仮称)「学校・地域 にしとうきょう応援会議」」は、地域同士の繋がりが生まれ、取組の発展が期待でき、非常に重要な取組になると思います。映像等で発表できる機会があれば、会議参加者以外が見られるとなおよいと感じました。

また、「子ども・地域応援企画」については、児童会や生徒会の役員の子供達などに、アンケート形式でその採用に関わってもらうことも可能ではないかと思っています。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

「(仮称)「学校・地域 にしとうきょう応援会議」」は、会議の内容について、いろいろな方に広く御覧になっていただけるような工夫を図っていきたいと思います。

「子ども・地域応援企画」については、市民の提案に対して行政だけがその選考に関わるのではなく、市民の方や子どもたちにも、それぞれの目線でコメントをいただきたいと考えています。

○市長：

地域の中では認知されているものでも、地域を離れるとなかなか知られていない活動もたくさんあります。それらの活動を広めていく意味合いでも、「(仮称)「学校・地域 にしとうきょう応援会議」」を実施したいと考えています。

○服部教育委員会委員：

虐待に関して、経路別虐待通報件数で学校が多いことについて、入学時に発覚することが多いということでショックです。幼稚園や保育園で露見しないことが残念であります。できるだけ早期発見が重要で、幼稚園、保育園との連携を強化していただきたいと思います。

「MUF G パーク (仮称)」については、企業側が企業の経費で行ううえで、地域展開を図る際、西東京市に相談があったと理解しています。設置が予定されている図書館について、民間施設だと貸出をしない図書館もあるようですが、貸出の予定はありますでしょうか。

○八矢子ども家庭支援センター長：

未就学児には力を注いでいきたいと思っています。幼稚園や保育園に実際に訪問することで、職員への教育も含め、情報提供を行っています。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

図書館について詳細はまだ伺っていませんが、銀行側が用意する本だけでなく、地域の方が持ち寄った本も蔵書に加えたいとの考えがあると伺っています。実際に本を貸し出しするかは今後銀行側に確認をいたします。

○山田教育委員会委員：

西東京市学生応援特別給付金の対象は、新型コロナウイルス感染症の影響の有無は関係なく、給付型の奨学金を受けている方だけでしょうか。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

この奨学金自体は、新型コロナウイルス感染症のために創設されたものではないと思いますが、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた方も給付を受けられる制度設計になっています。

○山田教育委員会委員：

国の奨学金にぎりぎり手が届かない方で、コロナ禍において困窮している学生に対し、救いの手が伸びているのかお聞かせください。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

日本学生支援機構への申請は年2回設けられています。従前、給付の対象でなくても、コロナ禍で生活が急変した場合、2回目での申請が可能な制度となっております。そのため、今回の西東京市学生応援特別給付金の対象者をこの給付型奨学金の認定を受けている方として設定しました。

○山田教育委員会委員：

今年度限りの単発の支援ではなく、新型コロナウイルス感染症流行中での継続的な支援が必要だと考えます。

○市長：

先般、学生向けの食糧支援を実施し、90人の学生が集まり、「非常に助かりました」との声をいただいたところです。様々な声を聴きながら、市として何ができるか検討していきます。

○米森教育長職務代理者：

いじめと虐待に対してはこれまでも一番力を入れて取り組んできたと思います。コロナ禍での影響と今後のお考えを聞かせていただきたいと思います。

○八矢子ども家庭支援センター長：

今は心理的虐待が増えており、喧嘩を目にする児童の心のケアが必要になっています。DVでは夫婦が対象ですが、成長に伴って親子に変化していきますので、DVがきっかけで虐待の早期対応につながっていると考えています。未就学児や早期の対応に、今後注力していきたいと思います。

○荒木統括指導主事：

いじめの件数は微増の状況から、令和2年度は認知件数が大きく増えました。令和2年度は臨時休業後のスタートアップ期間に面談を実施したことから、子どもたちがSOSを出しやすくなったと捉えています。いじめ発見のきっかけは、年に3回実施するいじめのアンケートが最も多くなっています。今後市としては教員の感度を上げ、子どもたちがSOSを出しやすい環境づくりを進めていきます。

○米森教育長職務代理者：

「（仮称）学校応援団制度」では新たに推進員を設け、推進するとのことですが、推進員が学校との窓口を集約的に担えるのであればよいと思いますが、単なる放課後子供教室の役割の代替だけでは物足りないと感じます。

応援団を担う方の選び方を多方面から考える必要があると感じました。軽作業や事務作業だけをボランティアでする方ではないということに注意していただきたいと思います。

○和田社会教育課長：

「（仮称）学校応援団制度」の推進員は既存の団体をネットワーク化し、統轄した存在となります。推進員については、教育委員会で委嘱することとなります。

協働活動の中身について、これまでも様々なボランティアがいらっしゃいますので、引き続き検討していきたいと考えます。

○米森教育長職務代理者：

推進員の役割が、PTAやおやじの会の窓口となるのはわかりませんが、推進員にすべての情報が集約されるものではないのでしょうか。

○和田社会教育課長：

すべてではありませんが、多様な学校活動に取り組むうえで、推進員が窓口となって各団体と調整しながら進めていくということになります。

○米森教育長職務代理者：

学校での決め事について、学校運営協議会で決める事項と、推進員と学校、団体とが決定する事項とがそれぞれ別に存在するという点でよろしいのでしょうか。

○和田社会教育課長：

そのとおりです。

○今井教育委員会委員：

子どものうちからいじめや虐待について学ぶ機会があればよいと思います。また、保護者や地域の大人を対象とした学ぶ機会を提供いただきたいと思います。「MUF Gパーク（仮称）」については、地域開放についてとても楽しみです。「（仮称）「学校・地域 にしとうきょう応援会議」」については、地域での取組を広めていただけることはそれぞれの地域にとってよい刺激になって、地域全体が元気になればよいと感じました。

○市長：

様々な御意見をいただきありがとうございました。

いただいた御意見を踏まえ今年度の取組にいかしていきます。

議題3 その他

○市長：

今年の夏は緊急事態宣言が発出され、大変厳しい状況です。子どもたちの居場所づくりや見守りは、市長部局と教育委員会とが連携しながら取り組んでいきたいと考えています。教育委員の皆様にもお力添えをいただきたいと思いますので、御協力をよろしくお願い致します。

○市長：

事務局より連絡事項を求めます。

(事務局説明：会議資料と会議録の公表、次回開催予定について)

○市長：

最後に、本日の内容を踏まえ、教育長から意見を求めます。

○教育長：

教育長としてこれまでも総合教育会議に参加をしてきました。市長部局と教育委員会が話し合いをしながら進めていくうえで、今回、市長が「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」を公約に掲げられたことは、嬉しく思います。市長部局と教育委員会は、今回の企画政策課からの提案を含め、より強固な連携を進めていかなければならないと思います。また教育委員会も、市長部局との連携を図っていくという姿勢が必要であると感じました。

地域づくりという議論では、公民館、図書館が教育委員会として何ができるか、改めて考えていかなければならないと感じました。

最後に、西東京市子ども条例が制定され、これまでも教員に対する研修は行われていますが、子どもたちが条例をどのようにとらえ、何ができるのか、声を聴く必要があると感じました。夏休みには子ども条例の勉強会を行う機会を設けています。今年度の重点施策を包含するような形で取組を進めていきたいと思います。

○市長：

以上で、本日の議題はすべて終了となります。

7月20日にひばりが丘中学校では、旧校舎で最後の終業式を行いました。すべての教室で黒板アートが描かれており、それらを見る中で、生徒の感謝や夢、希望が言葉や絵としてそのまま描かれていることが印象的でした。子どもたちの気持ちをしっかりと受け止め、市政運営に取り込んできたいと考えています。

以上で、令和3年度第1回西東京市総合教育会議を閉会します。

<閉会>